

令和3年度 学校評価・学校関係者評価実施結果報告書

岡山県理容美容専門学校

1. 教育目標

本校は、実践的な理容・美容の職業教育を行い、これからの社会のニーズに対応できる優れた理容師・美容師を養成する理容美容専門学校である。

そのためには、一人一人の学生に基礎技術から専門的な技術・技能・知識の修得が出来るよう教育環境を整え、その中で理容・美容業の厳しさや楽しさなども体得させながら、理容・美容業に誇りを持った学生の育成に努めなければならない。そして、何より、理容・美容業がお客様に満足してもらえる技術とサービスを提供する業であることを認識させなければならない。

そこで、本校では従来から次の教育目標を掲げている。

- ・誠意----すべてのお客様に対して、真心を持って接することができるよう、日常において接客の心構えを持たせる。
- ・熱意----いかなる時でもお客様が満足できる結果が得られるよう、一生懸命頑張れる精神力を養う。
- ・創意----お客様に満足してもらえる必要な知識、技術、快適な施設や設備など、常日頃からよりよいものを創り出そうとする意識を持たせる。

これらの教育目標は、在学中はもとより理容・美容業に従事する上で、生涯持ち続けてほしいと願っている。

2. 本年度の重点目標と計画

① 国家試験合格体制の強化

理容科は、全員合格という目標を毎年連続で達成している。本年度は、理容科だけでなく美容科においても全員合格を目標に取り組んでいく。昨年度の重点目標でもあった筆記対策を強化した結果、理容科美容科とも筆記については100%を達成できた。美容科においては、特に衛生試験対策に重点を置き指導していく。

② 教育環境の充実

数年前より各教室に最新のプロジェクターやスクリーンを設置してきているが、全教室には設置できていない。よってコロナ禍の中、三密にならないよう技術指導や資料展示により学習効果が上がるようにプロジェクターやスクリーンを全教室に設置し、さらなる充実を図る。

③ 新型コロナウイルス感染対策の徹底

新型コロナウイルスへの警戒感が薄れつつある中、再度消毒の徹底、換気の重要性等感染

予防の指導を行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

番号	評価項目	評価
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
1-2	学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1 0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1 0
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

コロナ禍にあり昨年度は入学式、卒業式での後援会総会は書面表決になった。また、学園祭もオンライン配信となり保護者の方に学校の理念・目的・育成人材像等々を周知する機会が減ってきた。よって、対面でのコミュニケーションをとる機会がなくなっている為、あらゆる機会を通じて学校に対する理解を深めていただく必要があると思われる。

② 今後の改善方策

対面での周知が実施できない代わりに、ホームページで様々な学校の取り組みを見ていただけるように学生を通じて周知し、教育活動の集大成でもある学園祭もコロナの感染状況を鑑みて、なるべく保護者の方にも会場で見えていただけるように検討したい。

(2) 学校運営

番号	評価項目	評価
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	④ 3 2 1 0
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1 0
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1 0
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1 0
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1 0
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

例年通り令和3年度の学校運営方針は、前年度末の学園理事会において決定され、その後の職員会議において教職員に示されている。給与規定等についても明確にしており、教職員が安心して勤務に専念できるよう、常に風通しの良い職場環境を第一に考えている。

社会全体の若者のモラルの低下が叫ばれている昨今、更なるコンプライアンス体制を整備していくことが求められる。

② 今後の改善方策

社会生活を円滑に営むためにも、接客業に従事する者としても、マナー・モラル・ルールの順守に努め、挨拶の励行に重点をおき、地域社会との共生を意識させる。

(3) 教育活動

番号	評価項目	評価
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1 0
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1 0
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1 0
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1 0
3-5	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置付けられているか	④ 3 2 1 0
3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1 0
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1 0
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1 0
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1 0
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1 0
3-11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1 0
3-12	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

コロナ禍において、業界トップレベルの講師による実習指導の回数が減少し、さらに理容所・美容所でのインターンシップも実施できていなかった。その為、優れた技術や専門知識の修得の機会が失われたことにより、接客、言葉遣い、身だしなみ、器具の衛生管理などサロンワークの実践教育に触れる機会もなく、例年の学生に比べ将来に対するビジョンを描きにくくなっていると思われる。

② 今後の改善方策

教員は技術だけでなく、あらゆる面で人材育成目標の達成に向け授業を行うべきである。コロナ禍で講師の指導回数が減少した部分をカバーできるように、教員が理容・美容組合と密接に連携しながら業界の動向を把握し、最新の情報を学生に伝達することで学生の将来像を具現化するための一助となるように人材育成に努める。

(4) 学修成果

番号	評価項目	評価
4-1	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-2	資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-3	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1 0
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

令和3年度3月卒業(昼間課程)の国家試験合格率は理容科が100%となった。美容科は国家試験合格率が96.2%と昨年(99.1%)に比べ、合格率が若干低下した。原因としては、コロナ禍の影響があげられる。例として濃厚接触者に認定され実技試験が受けられなかったことにより不合格となった者や、自宅待機により試験直前の指導が不十分な者などコロナ関連での不合格者が出てしまった。

② 今後の改善方策

家族内感染は致し方ないことではあるが、特に試験前には、折に触れて「生活を共にしていないような人」との接触は控えるように指導していた。今年度のコロナの感染状況は先行き不透明であるが、資格取得率に影響を及ぼさないよう今回のことを踏まえコロナ感染予防対策の更なる徹底を行う。

(5) 学生支援

番号	評価項目	評価
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1 0
5-7	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1 0
5-8	卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1 0

おいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

学生相談に関する体制は担任面談、校長面談等整備されているが、精神的に問題を抱える学生も増加してきており、人間関係で悩む学生も増えてきている。特定の教員だけでなく、学校全体で学生を見守っていけるように教員間で学生の状況を共有する。

② 今後の改善方策

常に身近に接している教員では対応しきれない場合を考慮し、スクールカウンセラーの必要性についても検討する。

(6) 教育環境

番号	評価項目	評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1 0
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1 0
6-3	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

全教室に後援会支援のもと最新のプロジェクターやスクリーンを設置し、技術映像や資料掲示などができるよう環境整備の充実を行った。

防災に対する体制も毎年年度初めに防災安全計画を立て、自然災害への備えとして避難訓練を実施しているがAED講習についてはコロナ禍で実践的な講習ができなかった。

② 今後の改善方策

防災に関してのAED講習については、毎年外部の業者に依頼していたが、コロナ禍で外部との接触を避けるために映像だけの講習となった。しかし、来年度は従来通りの実践的な講習を予定している。

年度ごとに火災時の避難訓練、地震時の避難訓練を実施しており、消防署と連携を図りながら地震体験車やVRでの火災訓練も検討しつつ学生の防災に対する意識を高める。

(7) 学生の受入れ募集

番号	評価項目	評価
7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④ 3 2 1 0
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1 0
7-3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1 0
7-4	学生納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

学生学納金については、長年値上げせず募集してきたがこの度は、物価上昇の為、来年度の募集から実習用具等の値上げをせざるを得なくなった。昨年度は定員を大きく上回る入学志願者数となったために、今年度から募集定員を増加し美容業界へ優秀な人材を多数輩出するためにも門戸を広げ積極的な募集活動をする事ができたが、コロナ禍の為、体験入学では技術体験の形式をとることが出来ない募集活動となった。

② 今後の改善方策

学生が体験入学において衛生的に安心して技術体験ができるように技術体験の内容を精査し実施に向けて計画をする。来年度も人数に制限を設けながら実施する等工夫し、年11回実施している体験入学とは別に少人数制説明会を実施していることの周知を行い、正確な情報を高校生に提供していく。

(8) 財務

番号	評価項目	評価
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1 0
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1 0
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

本年度も本校の学園会計を指導する指吸会計センターから、本年度の学園会計は健全であり財政基盤は安定していることの報告を受けた。また、学園監事により学園・学校運営や資金収支においても適正であることの監査報告を受けている。なお、これからもより一層の透明性と健全経営を図っていく所存である。

② 今後の改善方策

本年度は美容科の定員増を実施した。これにより選抜基準に余裕が生まれ、より幅広く合否判定ができた。

なお、今後は少子高齢化により入学者数の減少が見込まれる。退学者休学者を低減し授業料収入を中心とする財政基盤の安定と予算の厳格化に努めていく。

(9) 法令の遵守

番号	評価項目	評価
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1 0
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1 0
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1 0
9-4	自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

例年通り、理容師養成施設指定規則・美容師養成施設指定規則及び専修学校法に基づき適正に運営を行っている。

学生アンケートを前期・後期に2回実施し、各分類項目の分析を行い問題点の解決をはかった。また、教職員による自己評価の結果に基づいて、学校関係者評価委員会において、客観的評価を得て学校運営の改善を行っている。

② 今後の改善方策

次年度においても関連する業界団体と連携協力し、自己評価での問題点や学校関係者評価での提言を受け入れて、よりよい学校づくりに励んでいきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

番号	評価項目	評価
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1 0
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

年に2回近隣の地域清掃を行っている。

また、物理的・時間的の許す限り社会貢献・地域貢献や他の教育機関との連携授業並びに施設使用の提供を行っている。※についてはコロナの影響により中止

- ・豪雨災害時における緊急避難場所-----岡山市大元学区連合町内会
- ・チャレンジワーク！お仕事体験教室-----岡山市立福田公民館※
- ・パラ×コレ(障がい者のファッションショー)-----パラコレ実行委員会※
- ・うらじゃ祭り(うらじゃ踊り参加とメイクボランティア)---うらじゃ実行委員会※

② 今後の改善方策

引き続き地域清掃を行いながら更なる地域からの信頼獲得に努め、地域に根差した学校となれるよう学生の意識改革を行う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和3年度の学校運営について、在学者数並びに入学者数はここ数年連続して順調であり、令和2年度の入試では県内志向および近県からの志望者が増えたために近年にない厳しい入試となり、多くの学生を不合格にせざるを得なかったため今年度は美容科の入学定員を増員した。この結果、より多くの理容師、美容師を目指す受験生の志望をかなえ県内を中心とする各高校の期待に少しでも応えることができた。

国家試験では、理容科は全員合格の100%を達成し、美容科は筆記試験においては100%であった。コロナ禍以前は校外コンクールで多数の上位受賞者を輩出していたが、校外コンクールが軒並み中止となり活躍の場が失われ学生のモチベーションが例年に比べ低下している様子が見受けられる。今年度は校外コンクールも実施されそうであるが、中規模校としてのスケールメリットを生かし新たなコンテストを創設する等、校内でのコンテストも充実させたい。

まだまだ予断を許さない感染状況であるが、コロナに対しての警戒感が薄れつつある様子が見受けられるため、例年通りの学校行事が実施できるように本校の掲げるスローガン「うつらず、うつさず、持ち込ませず」を徹底し、学生にとって満足度の高い学校運営を行う。